

## 身体的変化を通して語られる妊婦体験に対する意味づけ

### － 初産婦へのインタビュー調査から－

立命館大学大学院  
応用人間科学研究科  
臨床心理学領域  
磯井 知子

妊娠・出産に対しての選択が多様化している今日において、女性にとって妊娠・出産とは、自身の人生の中で、どのような体験であるかを明らかにする必要性が指摘される。そこで本研究では、初産婦を対象に当事者の妊婦体験がどのようなものであるかについて身体的変化と、その変化への意味づけに焦点をあてて描写することを目的とした。

対象者は、出産から1年未満の初産婦2名（平均年齢30歳）であり、インタビュー調査を行った。得られた語りをもとに、時間軸に沿って初産婦の身体的変化とその意味づけについてライフ・ストーリー法を参考に分析を行った。

本調査の結果から、妊婦は身体的変化を通して意識面においても、身体面においても母になる過程を辿っていたことが明らかとなった。初産婦は、自身の身体が“女性の身体”から“母親の身体”に変化していくことに抵抗感を抱きながらも、受け入れようとする姿勢がみられ、その両者の狭間で葛藤が生じていた。しかし、我が子のための身体的変化であると意識することで身体の変化にも折り合いをつけていたことが明らかとなった。つまり、初産婦における妊婦体験とは「人を育てる人になる」過程であり、意識および身体の変化によって生じる、女性性と母としての意識の葛藤に折り合いをつけることであった。そのことが、初産婦にとって育児を遂行していくための構えとなるものであると示唆された。